

二〇二三年三月二日(参加者一〇名)

観音のみ手に広がる梅の丘	せいじ
古池の汀をつづる菖蒲の芽	せいじ
芳香の立ちのぼりくる梅の丘	せいじ
お彼岸の供花の溢るる墓苑かな	せいじ
瀬の楽に和するごとくに楓芽吹く	うつぎ
お彼岸の人出に妙鉢の鳴りやまず	うつぎ
お彼岸の井筒に響くポンプ音	うつぎ
朱の欄に凭れて愛づる丘の梅	ぼんこ
空谷の奈落に積もる春落葉	ぼんこ
山つつじ樹間に透けて燃えにけり	ぼんこ
閻王の秤のうへの春の塵	小袖
法会なる僧侶の列に花の影	小袖
彼岸寒香具師早々と店仕舞	よう子
朱の堂の宝珠の空へ桜咲く	よう子
春水に一と並びせる六地藏	あひる
春が来た春が来たよとせせらぎぬ	なおこ
お彼岸の人で混み合ふ寺門かな	わかば

定例会の選

二〇二三年三月二日(参加者一〇名)